

オープン市場短信 (2015年8月)

2015. 8. 5

◆ 7月のCP市場動向

7月のCP（短期社債）月末残高は16兆5188億円と、12か月連続前年同月比増となった。6月末時点で有利負債圧縮を行った鉄鋼や卸売業等の復活発行やショートターム物中心に一般事業法人の資金調達ニーズが強まり、前月比では約8881億円の増加となった。一般事法では1兆2767億円の大幅増となったが、その他金融で393億円、金融機関で1178億円、ABC Pで2315億円と、それぞれ減少する動きとなった。

発行レートの動きについては、最上位格付け銘柄では0.075%台～0.089%近辺、a-1格の一般事業法人では0.08%台半ばから0.09%台での出合いが中心となった。

最上位銘柄(a-1+格)0.074%～0.085%。一般事業法人(a-1格)0.087%～0.1099%。
その他金融銘柄(a-1格)0.089%～0.151%。

【業態別残高内訳】

(単位: 億円)

業 態	7月末残高	6月末残高	増 減
一般事法	48,328	35,561	12,767
その他金融	65,587	65,980	-393
金融機関	37,249	38,427	-1,178
政府系金融	1,200	1,200	0
銀行等	14,430	14,870	-440
証券	21,619	22,357	-738
ABC P	14,024	16,339	-2,315
計	165,188	156,307	8,881

(注: 買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

7月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0810% ~ 0.1088%	0.0810% ~ 0.0930%	0.7400% ~ 0.0850%
a-1 (一般事法)	0.0890% ~ 0.1099%	0.0850% ~ 0.1010%	0.0870% ~ 0.1099%
a-1+(リース銘柄)	0.0890% ~ ——	—— ~ ——	0.0810% ~ 0.0900%
a-1 (リース銘柄)	0.0980% ~ 0.1190%	0.0820% ~ 0.1200%	0.0890% ~ 0.1510%
a-2	0.1000% ~ ケ0.25%	0.1000% ~ ケ0.25%	0.1030% ~ ケ0.25%

《CPオペ》

CP買入オペは、7日・16日・28日と各々4000億円にて実施された。7月中の発行増が影響したこともあり、ディーラーの応札ニーズが強く、各回ともに応札額が1兆円超えとなっていた。按分レートは、回を追うごとに上昇する動きとなった。

【月末オペ残高：2兆1888億円】

日銀CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
7月7日	7月10日	4,000	11,671	3,985	0.083%	0.088%	30.8%
7月16日	7月22日	4,000	10,801	3,998	0.084%	0.087%	84.7%
7月28日	7月31日	4,000	10,426	3,996	0.085%	0.090%	11.7%

《ABCP》

ABCPの月末残は、1兆4024億円（前月比2305億円減）となり過去最低水準の残高となった。前年同月比では、1335億円の減少であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、7月末時点における発行登録企業数は大王製紙が登録を行ったことから、501社となった。通算の発行企業数は、同社が初発行を行い543社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、7月中もレポレートの高止まりの影響もあって、先月と変わらず0.07%近辺から0.09%近辺での出会いとなった。

◆ 8月のCP市場動向

8月のCP償還額は約3兆1100億円で、前年同月の償還額（約2兆7900億円）を上回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、お盆休みがあることから、月後半に発行が活発化することが予想される。また、9月末の中間期末を見据えて、期内物のショートターム物の案件が増加すると思われる。

発行レートについては、銘柄を問わず9月末償還物は徐々にレート上昇地合いとなるだろう。期越え物は、投資家ニーズが強く低位安定地合いと思われる。最上位銘柄は、0.07%台半ばから0.08%台後半での出合いを予想する。一般銘柄では0.08%台半ば～0.09%台後半で、発行量の多い銘柄では0.09%台半ばから0.10%台後半での出合いを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）では、0.09%前後～0.15%近辺を予想する。

《CPオペ》

今月は、6日・18日・26日と、計3回の入札が何れもオファー額3500億円にて予定されている（6月は、各回ともに4000億円）。今月は、お盆休みもあることから発行がさほど膨らまないと思われるが、オファー金額の減少と足元現先レートの高止まり推移に影響され、オペレート（按分・平均レート）は横這いから若干上昇地合いを予想する。

《CP現先市場》

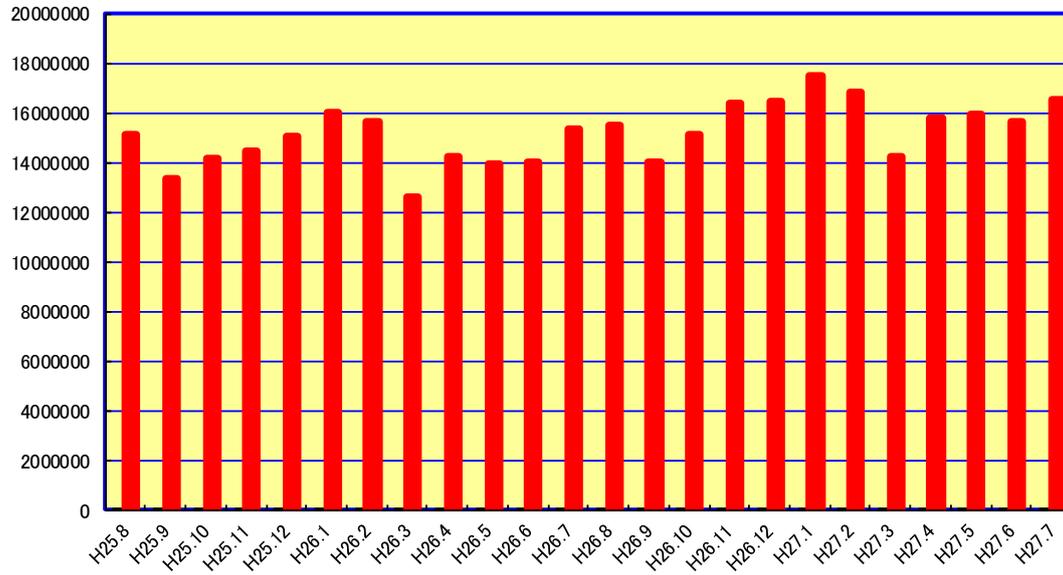
S/N物のレポレートは先月より上昇し、0.08%～0.10%前後での出合いが予想される。インターバンクレートは変わらず、0.06%～0.08%近辺での動きが予想される。CP現先レートは、レポレート上昇の影響もあって現在0.07%台～0.09%近辺での出合いとなっている。今月は、このまま同水準での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高 (25年8月～27年7月)

発行登録企業：501社（発行実績あり543社）

(過去2年間の残高を表示)



7月末発行残高ベスト20

7月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	7月末残高	6月末残高
1	三菱UFJリース	843,200	838,600
2	三井住友ファイナンス&リース	800,700	807,200
3	三菱UFJモルガンスタンレー証券	762,200	744,200
4	東京センチュリーリース	620,300	624,500
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	497,670	520,600
7	日本証券金融	459,000	301,000
8	大和証券	445,880	445,380
9	JXホールディングス	442,000	464,000
10	SMBC日興証券	421,800	480,300
11	みずほ証券	390,300	414,400
12	芙蓉総合リース	350,200	350,200
13	JA三井リース	342,000	342,000
14	三菱商事	340,000	30,000
15	興銀リース	339,000	336,000
16	ジェイエフイーホールディングス	320,000	86,000
17	三井住友信託銀行	318,400	317,400
18	スタンダードチャータード銀行	292,500	309,500
19	NTTファイナンス	274,000	396,000
20	エイペックス・ファンディング	240,250	294,460

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会